

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 宇城市立海東小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒869-0612

熊本県宇城市小川町南海東2050番地

E-mail kaitousyo-d@tsubaki.higo.ed.jp

Website http://es.higo.ed.jp/kaitou/

幼児児童生徒数 男子 40名 女子 32名 合計 72名

幼児・児童・生徒の年齢 7歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

<宇城市立海東小学校>

本校は、「我が故郷を愛し、「徳・知・体」の調和のとれた、豊かな人間性と実践力を備えた「海東っ子」の育成～夢や目標に向かってチャレンジ、一歩前進～を教育目標とし、ESDを故郷の自然を大切にし、未来につなげる取組と捉え、ESDの実践を通して故郷を愛する心や環境を守る心の育成を目指した。

具体的には、郷土愛の育成と環境保全を柱に、①地域の歴史を知る学習、②地域の河川（砂川）を調べる学習、③水と農業について学ぶ学習、④地域の環境保全に係わる学習を行った。

① 地域の歴史を知る学習

海東地区は水がきれいな地域であり、水に関する歴史が残っている。学校の前を流れる川（砂川）の源流に峠の岩清水がある。3年生から6年生までの子供たちが、この峠の岩清水を見学し、岩清水保存会の方々の協力を得て、水に関する歴史を教えていただいた。西南戦争の時に、薩摩軍がこの水をも

とに戦ったことを知った子供たちは、歴史が水をもとに作られていることに関心を深めていた。

②地域の河川（砂川）を調べる学習

砂川の水質調べや生き物調べを行った。1・2年生は、水の中の生き物調べで、ライフジャケットを着用し水の中に安全な状態で入り、生き物を探した。その後、取ってきた生き物を図書の本を使って調べた。4年生は、水のきれいな所にすむ蛍について調べた。海東地区の川のいたる所に蛍が飛び交っている。蛍の生態について調べ、蛍ときれいな水との関係について学習した。

③水と農業について学ぶ学習

5年生は、熊本県立環境センターを見学し、環境保全の必要性を学ぶとともに、自分にできる環境保全について考えた。また、きれいな水と農業との関係についても学び、米の生産体験を通して、環境保全の大切さと未来につながる農業生産について学習を深めた。

④地域の環境保全に係わる学習を行った。

5、6年生で砂川上流・中流・下流と河口を探検し、水質や生き物を調べるとともに、地域振興局があらゲストティーチャーを呼び、治水の仕組みや大切さについて話をしていただいた。水環境の保全について再確認を行った。



① 峠の岩清水の探検をする児童



② 水質調べと生き物調べの様子



③ 田植えをする児童の様子



④ 砂川下流と河口の探検

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 行事等)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

河川資料（熊本県地域振興局資料）

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

校内での研究にESDの視点に立った「言語活動」を設定し、各教科と関連させ、ESDの視点をもとに単元を通じた授業作りを行った。特に、批判的に思考・判断する能力、未来を予測して計画する能力を中心に取り組んだ。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

総合的な学習の時間の中に、ESDの視点を位置づけた活動を盛り込み、どのような時に、どのような活動を通してESDの視点を位置づけるかの年間計画を作成し、実行した。活動における反省を必ず行い、全体の意見交換の場で高めていった。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

校内においては研修等の中で評価したり、研究授業等を行い、外部から講師を呼んで、評価をいただいたりした。低学年部や高学年部に分かれてESDの視点から意見交換を行ったり、評価活動を行ったりして、研究を深めた。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

学校便り、HPにて発信している。活動に関心を示される方が地域に出てこられた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

- ・ 河川学習を中心とした環境教育や防災教育、食育を推進する。
 - ・ 地域の福祉施設での交流を通して、福祉社会の理解を深める。
 - ・ 校内研究の研究視点に育みたい力を位置づけ、教育活動の中で力の伸長を計図る。